

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月31日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4271401228		
法人名	医療法人 有心会		
事業所名	グループホーム 南風		
所在地	〒859-2202 長崎県南島原市有家町山川337 (電話)0957-82-3956		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年1月17日	評価確定日	平成20年2月20日

【情報提供票より】(平成19年12月10日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 13年 9月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数 ユニットA	12 人	常勤 6人, 非常勤 6人, 常勤換算	5,7人
職員数 ユニットB	12 人	常勤 7人, 非常勤 6人, 常勤換算	5,6人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階 建ての	1階 ~	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(1日あたり)	400 円		
その他の経費(1日あたり)	実費(理美容・おむつ・医、病院等の受診代)、50円(テレビ・電気アンカ使用料)、100円(電気毛布代)		
敷金	有( ) 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	833 円	

### (4) 利用者の概要(12月10日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名
要介護3	4 名	要介護4	6 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢 平均	87 歳	最低	74 歳
		最高	105 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	池田循環器科内科・まつしま歯科医院
---------	-------------------


## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

冠木門を潜ると玄関があり、外庭や箱庭で季節と明かりを感じる事が出来、かつて大家族が過ごした屋敷を思わせる、落ち着いた佇まいである。入居者を中心とした思い通りの生活の提供に重点を置き、安全と安心に繋がるケアを実践し、母体が医療機関であることから、医療と介護をトータル的に支援している。周辺には中学校と保育園があり、運動会等の行事の参加や、園児の訪問・中学生の体験学習を受託し、密接な関係を確立しており、地域の中で楽しく暮らしている。訪問時は雛人形が飾られ、華やかな雰囲気の中、全ての入居者が毎日笑顔で生活される事への配慮が窺えるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)  前回の評価の改善点は市町村との連携であり、評価結果を真摯に受け止め、改善計画シートを作成すると共に、市町村に出向き相談をし、市民清掃への参加を、手始めに前向きに取り組み、ケアの向上に繋げている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価を職員の研修の一環として活用し、自己評価票を職員全員に配布し、記述後会議を開催し、総まとめして詳細に記述している。評価項目を全職員で共有し、スキルアップに繋げている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)  2ヶ月毎に民生委員・市の職員・家族の代表・ホーム側が参加で運営推進会議を開催し、入居者の様子や行事等の報告を行っている。参加者からの質問が多く、次の議題にする事がある。情報の発信により交流が深くなり、外部の話聞く機会の一環として活用し、サービスの向上に活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)  家族には毎月便りを発行し、個別の状況報告と相談苦情の傾聴の体制を伝えている。訪問者が多く、最低月2回の来所があり、説明をしている。状況によっては電話や自宅訪問を実施しており、日頃から気軽に何でも言い合える関係確立に努力しており、結果は運営に反映されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)  ホームの周りは民家が少なく、中学校や保育園があり、体験学習の受託や運動会等の行事に参加したり、時々保育園児の訪問を受けている。又、町内の清掃作業に参加する事が出来、出来る事でのお付き合いをする事で、顔馴染みの関係が確立している。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>1. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「入居者の個性を尊重し、QOLを高めることにより生き甲斐を持って明るい生活をして頂く」と理念を掲げ、地域を視野に入れながら、その人が望まれる生活が送れる事を念頭に置き、生活の質の向上に努めている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を、入居者はもとより職員が常に見れる場所に掲示し、朝のミーティング時や事ある毎に話し共有している。常に入居者の気持ちになり、思いを把握しながらの支援を目指している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの周りは民家が少なく、中学校や保育園があり、体験学習の受託・行事の参加・時には園児の訪問を受けている。又、町内の清掃作業に参加する事もあり、出来る事でのお付き合いをする事で顔馴染みの関係が確立している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価の結果への取り組みとして、市に出向き相談をし、市民清掃への参加を、手始めに前向きに取り組んでいる。又、自己評価票を職員全員に配布する事で、個々の職員記入 全体で会議・集計 代表者が記述の手順で、詳細に実施項目を記述し、職員の共有を図り、スキルアップに繋げている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に民生委員・市の職員・家族の代表・ホーム側の参加で会議を開催し、入居者の様子や行事等の報告を行っている。参加者からの質問が多く、次の議題にする事もある。情報の発信により交流が深くなり、外部の話聞く機会の一環として活用し、サービスの向上に活かしている。		

グループホーム 南風

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日頃より慣れ親しんだ地域である事から、市役所の市民課や介護保険課へは気軽に相談や訪問をしており、連携が取れている。又、入居者に権利擁護を利用している人がいる事で、密接な関係が確立している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行する広報誌に入居者それぞれの様子を書く欄を設け、家族に送付し喜ばれている。受診に関しては逐一、電話で報告している。又、金銭管理同意書を受領し、出納帳に記入し、家族に報告する事で、金銭の授受を明確にしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族は、最低でも月2回以上、面会や支払いで訪問され、必要時は電話や自宅訪問を実施している。毎月の広報誌で意見や要望をお願いされ、傾聴の姿勢をアピールしている為、家族も気軽に話されており、前向きに取り組んでいる。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の心のケアに努め、ストレスのない職場を目指し、言い易い関係で明るい雰囲気である。職員の異動は極力避け、馴染みの職員によるケアに努め、入居者のダメージを考慮した心遣いに配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は可能な限り参加しており、知り得た情報はミーティングで話し、共有している。又、内部研修としては、職員会議を学習の場として活用し、職員のスキルアップに繋がる題材を取り入れ、仲間ケア会議をする事もあり、積極的に学ぶ姿勢がある。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	個人的には他ホームと顔見知りの関係はあるが、事業所としての交流までは至っていない。20年4月より南島原地区ケア研究会への加入を計画している。		4月より南島原地区ケア研究会に加入予定であり、研修会の参加やスポーツ交流、他のホームの行事への参加を含めた相互訪問等、密接な交流により、互いの優れた点の活用が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居希望者には事前にホームに関する説明をし、家族からは困っている事、利用者からは何をしたいかの希望を聞き、見学や自宅訪問をしながら入居を決定している。入居後は安定されるまで家族に連絡や来所をお願いし、心のケアに努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は入居者から、ことわざや昔話、食材の上手な使い方等、様々な知恵を教えて頂き、学びながら共に暮らす同士として思いを共感し、支え合いながら生活している。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時に、バックグラウンドに繋がる生活歴や嗜好を聞き取り情報として踏まえ、1日3回のミーティングを開催し、状況の伝達を細やかにする事で共有を図り、本人本位の支援を実施している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケア会議・ミーティング・職員会議をする事で、入居者や家族のニーズを把握し、日々の個人記録にケアニーズを明示し、職員間で共有を図っている。入居者の主訴を常に念頭に置き、計画作成に反映し、昼夜を分けた個別で実践可能な計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>作成した計画が入居者に即しているか、日常記録や職員会議で全員で話し合い評価を実施し、計画作成担当者・指導者・管理者により、精神状態を中心とした現状に即した新たな計画を作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者が安心して暮らせるように、医療連携・早期退院に向けた情報交換・ホームの見学受理・通院介助・面会者の宿泊・訪問理容や行きつけの美容室への介助等多岐にわたっており、柔軟な支援を実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の殆どが母体の病院をかかりつけとして、気軽に相談・支援が受け、24時間適切な支援が来ている。又、必要に応じて、認知症の専門医の指示を仰いでいる。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う指針を明確にし、入居時に説明し同意を得ている。(指針作成以前の入居者には、作成後全員に同意を得ている。)現在までに看取りの実施はないが、希望があれば受け入れる為、記録や係りを含めて体制の確立に取り組んでいる。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の尊厳を基本とし、排泄時は他の入居者に気付かれないように言葉掛けに注意し、衣類の交換は見えないように戸を閉めながら実施している。情報を安易に外部に漏らさない事を徹底し、職員から誓約書を受理する事で、情報の漏洩防止に努めている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	管理するルールはなく、入居者と家族の希望を第一に考え、食事や生活の基本的な1日の流れはあるが、捉われる事なく、希望に沿うように配慮しながら、柔軟な取り組みを実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関する一連の作業(食材の下ごしらえ・後片付け等)を入居者と職員が一緒に行い、嗜好を取り入れた美味しい食事を提供している。全員で食卓を囲む事で、楽しい食事風景であり、ホームの菜園での作物が食卓を飾る日も間近である。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は基本的には、冬季は週2回・夏季は週3回である。拒否や体調により、全身清拭に変える事があるが、清潔保持に繋がる支援が出来ており、ゆっくり入浴を楽しまれる事もある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者は出来る事を(手すり拭き・居室の掃除・モップがけ・プランターの水遣り・茶碗拭き・洗濯物たたみ・畑等)楽しんでされており、裁縫・新聞・トランプ・カルタ等皆さん多彩であり、仲間とゲームをしたり、喜びのある生活をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの保育園や中学校の運動会等の行事に参加したり、足湯・花見・ドライブ等季節を味わう事が出来る場所に、家族も一緒に参加しながら実施している。車椅子の人は駐車場で外気浴をしたり、出来るだけ戸外の空気に触れる支援を実施している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない暮らしの大切さについて認識し、外出傾向の入居者を職員は理解しており、連絡体制の確立や目配り・気配りで鍵をかけないケアを実践している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署・消防団・家族の協力のもと、年2回消火・避難訓練を実施している。非常時に備えカセットコンロを準備し、気象状況では飲料水の確保を実施している。しかし、天災(地震・水害等)を視野に入れた対応マニュアルを作成しているが、訓練の実施はない。		天災(地震・水害等)の様々な災害を想定した避難訓練の実施をされ、如何なる時も入居者を落ち着いて避難させる方法を身に付けられる事が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好調査を実施し、好みを取り入れたバランスの良い食事(栄養士がメニュー作成に加わる)や、入居者の状況を把握し、ミキサー・刻み・トロミ・経鼻食等を提供している。又、水分は大まかに把握し、不足しないように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは冠木門を潜って玄関に入り、庭や箱庭があり、明るく閑静な住まいである。庭木や7段飾りの雛人形を畳の場所に飾り、季節に対する配慮があり、炬燵・テーブル等、居心地の良い空間を提供している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はエアコンや加湿器で空調を行い、筆筒や家族の写真を置き、思い出の品も持ち込まれており、出窓には観葉植物のある部屋もある。		転倒防止の為に、床に布団を敷き(畳ベットの畳を床に置き、布団を敷き、ボア敷きパットで暖かくしている)暖かくする配慮があるが、寂しさがある。出来れば家族と相談をし、絨毯等の敷物をお願いされると更に良いのではないか。